



〒360-0025 埼玉県熊谷市太井 1685-1 TEL:048-522-8880 FAX:048-522-0188

<http://www.youai-clinic.com>

☆院長あいさつ

☆脳波検査が始まります

☆教えて！MRIによる認知症診断

☆熱中症に気をつけましょう



東日本大震災から3か月以上経過し、被災者の皆様の救援や復興支援、福島原発事故の収拾の途上にて、未だに明るい道筋が見えない状況です。クリニックにおきましては震災義援金を4月から開始し患者様から御厚情の義援金を頂きました。

この場をお借りして厚く御礼申し上げます。息の長い支援を今後も継続していきたいと考えております。

今年7月でクリニックは開院後5年目に入ります。4月から始めました訪問リハビリも徐々に利用される患者様が増えつつあります。またこの度、脳波計を新たに導入して、てんかんや認知症等の補助診断に役立つように致しました。今後とも信頼されるクリニックを目指して前進していきますので宜しくご教示のほどお願い申し上げます。

院長 金 三雄



脳波検査が始まります



脳波検査とは…？

ヒトの脳は、約140億個の神経細胞があります。それらの電氣的活動のまとまりを頭皮上や脳表面、深部等に電極を置き記録したものを脳波といいます。電気活動といってもその強さは超微弱で、その強さは数～数100マイクロボルト（ μV ： $1\mu\text{V}=1/100$ 万V）で、周波数は約1~30Hz位です。当クリニックでは頭皮上に電極を置く方法です。適応は主に意識消失、けいれんなどです。

どうやって検査をするの…？

頭皮上に電極を十数個つけてベッドに寝てもらいます。ときどき眼を開けたり、目の前で光を点滅させたり、過呼吸をしてもらったりして記録していきます。30~40分程度の検査になります。

脳波検査することで判ること…？

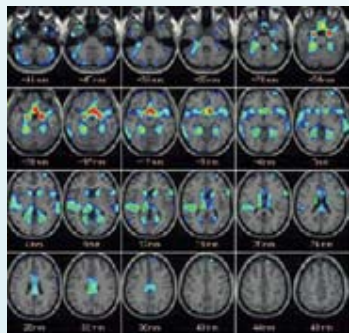
覚醒時や睡眠時の脳の活動状態や意識障害の鑑別などに有用です。たとえばこの意識障害って、てんかん、または感染症による脳炎、肝硬変に伴う脳症なのか…など、脳波を検査することによって鑑別できることがあります。検査をご希望の方はお気軽にご相談ください。



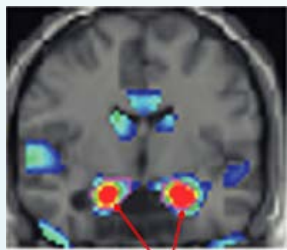
臨床検査技師 大澤・吉田



認知症は加齢による「もの忘れ」との区別が付きにくい病気です。「もの忘れ」が年齢相応の自然なものなのか、病的なものなのかを、なるべく早く診断することが重要です。なぜなら、原因となる病気を適切に治療すれば、「もの忘れ」の症状を軽くすることや、進行を遅らせることができる場合もあるからです。認知症も、早期診断・早期治療が大切です!!



【VSRAD 解析画像】



萎縮箇所を青赤で表示



海馬

海馬傍回

【正常脳】

【萎縮脳】



アルツハイマー型認知症では、脳の中の“海馬(かいば)・海馬傍回(かいばぼうかい)”と呼ばれる「記憶にかかわる重要な部位」が、最も早く萎縮することが判明しています。海馬・海馬傍回付近の萎縮がどの程度かを見極めることが、早期アルツハイマー型認知症の画像診断で大切なことなのです。

今回導入した「VSRAD システム」を使うことによって、当院で撮影した頭部 MRI 画像と健常者のデータベースで、海馬・海馬傍回の“萎縮の程度”を比較し、今まで難しかった萎縮の程度を数値で示すことができるようになりました。この結果と臨床症状、他検査の結果を総合的に判断し、診断・治療を行います。「もの忘れ」などが気になる方は、診察の際に医師までご相談下さい。※VSRAD 検査結果のみでアルツハイマー型認知症と診断することはできません。

熱中症に気をつけましょう !!!



熱中症とは暑い環境で生じる障害の総称で、4つの種類(熱失神、熱疲労、熱痙攣、熱射病)に分けられます。熱中症で危険なのは、自分では『ちょっと体調が悪い』『少し気持ちが悪い』と思っているうちに症状が進んでしまっていることです。熱中症は予防が大切になります。健康的な生活を心がけて暑い夏をのりきりましょう!!!! 看護師 勝永・大内

予防策

- ◎体調を整える
疲労、発熱、かぜなど体調が悪い場合には無理に運動をしないようにしましょう
- ◎食事をきちんととる
筋肉に必要なタンパク質やビタミンB1の摂取を心がけましょう
- ◎睡眠時間を十分取る
- ◎こまめに水分補給
アルコールは水分補給にはなりません
- ◎冷房を上手に利用する
外気温との差を 5~6℃以内にしましょう
- ◎外出時の服装に注意する
- ◎年齢を考慮した予防をする



応急処置

- ◎涼しい場所で水分補給
スポーツドリンクなど少量ずつ補給しましょう
吐き気や嘔吐がある場合は、水分補給が出来ないため医療機関を受診し、点滴することも必要です。
- ◎体を冷やす
全身に水をかけ、濡れたタオルを当ててあおぐと、気化熱による熱放散を促進させるので効率がよくなります。また、頸部、腋下(脇の下)、鼠径部(大腿部の付け根)などの大きい血管を直接冷やす方法も効果的です。
症状が軽度でも回復しない場合、医療機関を受診して下さい。

